

——2030年の長期ビジョンを策定し、現行中期経営計画(24~26年度)を次期中期経営計画に向けた種まきの期間に位置づけています。

「成長ドライバーの創生は全てを目前でやろうとすればスピードが追い付かない。今年度はプレキャスト・コンクリート製品メーカーのドーケン、熱マネジメント企業のMDI、構造・建築設計事務所AIGの3社をグループに迎えた。事業開発本部にM&Aを推進するチームと、当社のシーズを事業化につなげるチームがいるが、4月にPMIを統括するチームを新設する。M&A後のPMIをしっかりと進めた上で、次の案件に取り組んでいく」

「当社とドーケン、AIGの3社連携もすでに始まっている。MDIの排熱回収技術はまず当社グループ工場の熱効率を高めるために活用したい。更に当社の

Netzren 大宮 克己 社長



2026 トップインタビュー 難局下の成長戦略を聞く

M&A、シーズ活用で新事業創出

なサプライチェーンに係わる領域を強みにしているが、小型領域にも力を入れている。

「シーズの活用による事業創出についても具体例を聞きたい。」

「(切削せずに軸材に肥大部を成形する)軸肥大加工は、冷間鍛造をターゲットにしてきたが、加工速度への対応に課題がある。マグネシウム合金など非量産型の難加工材にも適用できている。提案先を広げようとしている。(異種鋼材を接合する) Netzren・マジ

型領域を強みにしているが、小型領域にも力を入れている。ユニット電源は多数の小型電源で構成するもので、制御方式も大型機種と異なる。幅広い出力帯でも取り組んでいます。

「アグレッシブ・チャレンジ・ワン・ Netzren を台詞にしてきた。ワン・ Netzren の代表例が生産技術の一体化であり、昨年4月に製品技術本部に製品事業

部の生産技術課を統合したのに続き、今年4月にIH事業部・加工

熱処理技術や装置技術と組み合わせて、新たなソリューションを提案していく」

「製品事業関連のM&Aが進んできたので、次は熱処理事業関連でどう広げていくか。熱処理受託拠点の拡大に取り組み、より広範

“ワン・Netzren”へ生産技術統合

柔軟な生産体制構築するまで、もう少し辛抱が必要だ」

「中部地区では、刈谷工場での生産・物流を整理化する「REBOR」の計画は、

「現地企業と連携して事業化調査を進めている。た

「生産技術部隊の統合は人事交流の活性化にもなる。旧寒川工場の人財開発を進めていく、また今年1月には役職定年を55歳から60歳に引き上げた。一般職の賃金カーブの改定も検討している。社内公募により社員が希望する部署・職種に異動できる『アグレッシブ・チャレンジ制度』も1月に始めている」

「主力の自動車向けに加えて、線径(形)や強度バリエーションを拡充し、自動車以外の市場にも進出している。米国の生産量が、米国の市況が回復

「自動車向け高強度はね用鋼線「ITW」の世

「自動車向け高強度はね用鋼線「ITW」の世

「主力の自動車向けに加えて、線径(形)や強度バリエーションを拡充し、自動車以外の市場にも進出している。米国の生産量が、米国の市況が回復

(谷山 恵三)